

当麻町花き生産組合におじゃましました

今回、上川総合振興局からは、当麻町花き生産組合をご紹介します。お忙しい中、快く取材を受けて頂きました。

◆なんと半世紀以上！耳を澄ませば歴史の息吹

当麻町花き生産組合は、昭和24年に当麻ダリヤ会を発足した後、会員の増加により昭和36年に当麻町花き生産組合として発足しました。平成元年からは比布町が加入し、広域生産が行われるようになりました。現在では当麻町・比布町・上川町・中富良野町・名寄市風連地区の産地まで範囲が拡大しています。

生産組合はそれぞれキク、カーネーション、バラ部会の3つで構成されており、講習会や検討会を行うなど、栽培技術の向上にも積極的に取り組んでいます。

また、平成22年度には創立50年を迎えるなど歴史の長い組合となっています。



50周年記念式典の様子

◆評判高いウワサの産地

昼夜の寒暖差がある盆地特有の気候風土を活かし、輪菊（りんぎく）を中心に栽培しており、生産量は全道でも屈指の産地となっています。他にもカーネーションやバラが多く栽培され、中でもバラは全道一の出荷量を誇ります。

生産された切花は道内のみならず道外にも数多く出荷されており、8月が出荷時期のピークとなります。

また、撰花システムを導入して長期安定出荷体制を確立し、生産者の熱心な努力により培われた栽培技術の高さから、花の評価は勿論のこと、平成16年には第31回全国施設園芸共進会で「農林水産生産局長賞」「全農会長賞」を受賞し、平成19年にも「ホクレン夢大賞」を受賞するなど組織や生産者個人も市場で高い評価を受けています。



菊の花

◆外は真っ白銀世界・・・でも中は？

凍てつくような真冬の寒さの中、今回訪れたのは、花き生産組合長さんのお宅です。バラを生産しているというこちらのハウスにおじゃまして、作業の様子を見せていただきました。



雪に覆われたハウス

外は畑も家も全て白い雪で覆われていますが、ハウスに入るとそこにはたくさんのバラの蕾で溢れていました。

出荷のピークが夏場ということもあり、この時期は作業をしてないと思われがちですが、ハウスの中では冬の間でも作業は続いているのです。

ハウス栽培のため、冬でも花を咲かせることは可能ですが、日照不足が影響して良い品質の花にはなりません。冬の間、株を若返らせるために枝を折り曲げる等せん定作業を行い栄養を蓄え、新芽が出やすくなるよう休ませます。この作業を行うことで、夏に良質な花を咲かせることができるのです。取材の最中も奥さんが忙しく作業をしていました。



手慣れた手つきでせん定作業を進める奥さん



ハウス内の様子

また、近年の原油高による暖房コストの上昇で、いかにコストを抑えることができるかが鍵となっているため、創意工夫の日々が続きます。

普段、何気なく見ている店頭の花も、こうした生産者の方の絶え間ない努力によって商品として並ぶことができるのだと感じました。

◆取材を終えて

夏の作業と違い、冬の作業は何をするか掴みにくい部分はあると思いますが、その中で普段は知ることができない活動をご紹介できたのではないかと思います。

今回、取材にご協力をいただき、懇切丁寧に説明をしてくださいました花き生産組合長さん、取材の日程等を調整して下さった方々にはこの場を借りてお礼申し上げますとともに、皆様も当麻町花き生産組合で作られた良質な花をお買い求めになってはいかがでしょうか？



バラの花

●当麻町の花についてもっと知りたい方はこちらへどうぞ！
当麻町農業協同組合ホームページ (<http://www.ja-tohma.jp/profile/>)

(平成24年1月取材 上川総合振興局農務課)